

第一回定例会のご報告

徹底した行政改革を目指して 今後とも取り組む決意です

区民の皆様のご支援をお願い申し上げます

通信かがやき

みなとかがやき 港区議会活動リポート

Apr.2003
Vol.16

編集発行
みなとかがやき
〒105-8511
港区芝公園1-5-25
TEL 3578-2111 (代)
FAX 3578-2931

ゆはら しんいち

総務幹事 湯原 信一 (47)

1955 (昭和30) 年8月8日生

区民文教常任委員

交通・環境等対策特別委員 (副委員長)

虎ノ門3-9-6 tel:3436-3950 fax:3436-3950

こさい たろう

幹事長 小齊 太郎 (33)

1970 (昭和45) 年1月16日生

総務常任委員

防衛庁跡地等調査特別委員

南青山6-1-6-603B tel:5485-9111 fax:5485-9100

みなとかがやき一般質問より (要旨抜粋)

新たに500名規模の職員削減計画を策定せよ!

《質問》港区の職員数 (2600人) は他区と比べてもまだまだ多すぎる。人口22万の墨田区も2500人の職員を500人削減する予定。現行計画の早期達成とともに、平成16年から10年間で退職予定者795人の7割にあたる500人を削減せよ。

《答弁》現行計画の早期達成に努力。一方、職員数適正化、総人件費抑制のため、新たな職員配置計画の策定を検討する。

《意見》昨年初め、「港区役所の職員は少なすぎる」と発言した原田区長だが、役所の職員はしっかりと現状を認識しており、今後の取り組みが確約されてよかった。それにしても、近隣で同じ人口規模の台東区より職員が1000人も多い状況はあまりにおかしい。今後とも、着実な削減が行なわれるようチェックを強める。

まちづくりの基本姿勢はいかに?

《質問》区長の所信表明に今後のまちづくりの方向性の記述が極めて薄いことに驚かされる。区民は近年の開発動向に懸念を抱いている。改めて、開発動向の評価を含め、まちづくりの方向を表明せよ。

《答弁》今後、街づくりマスタープランを見直す。基本的方針は継承し、区民の意向を反映しながら取り組む。

《意見》この質問は機会あるごとにしているが、答弁としては素晴らしいもの。ただし、区長は職員の作文を読んでいるだけなので、本当にどのように思っているのかいまだ明らかでない。現に、まちの様相は虫食いのようになってきている。今後は、制度や仕組みを活かして乱開発に歯止めがかけられるよう提案していきたい。原田区長がそのような具体的な行動を

おこなわないところにも大きな問題がある。

港区政改革の基本姿勢は?

《質問》区長は所信表明で、「日本全体が閉塞状況にある」とし、「これを打破するために、さまざまな分野での改革に向けた取り組みが始まっている」と述べた。この視点で港区政として何をしているのか、何をしようとしているのか、方向性が全く示されていないのは大問題だ。

《答弁》今後、区民とともに明るく躍動感あふれる社会を創ることが私の使命。

《意見》書き忘れましたが、例年第一回定例会では、区長が自らの思いを述べる「所信表明演説」が行なわれます。今回は、いつもよりだいぶ長い原稿だったのですが、ほとんどが「これをやりました」と「これをやります」という羅列、各部に書かせたものを縦割りのように読んでいただけで、自らこんな区政にしたいという思いや基本方針は述べられませんでした。述べられないならまだしも、その辺りから取って付けた流行の言葉を並べたかのような言い回しには、残念な気持ちを押しえられませんでした。方針無き区政は、「羅針盤の無い船」「行き先の無いバス」と同じです。危機的状況です。

みなとかがやきは、結成以来六年間、区政情報の原則公開と説明責任の徹底、区民参加のまちづくり、徹底した行政改革の実現を基本姿勢に活動して来ましたが、今後とも、自由で活力ある地域社会の実現、良好な生活環境を次世代に引き継ぐために、一層の努力を傾注して参ります。また、議会本来の役割である「積極的な政策提案」と「区長に対する健全なチェック機能」を充分果たします。何卒、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます

鳥居坂グラウンド等に関する要望書

平成十五年度予算特別委員会における審議をふまえ、以下の点について要望します。

1 教育委員会から要請のあった東町小隣地の取得については、区議会区民文教常任委員会におけるとりまとめを重大にうけとめ、鳥居坂グラウンドをはじめ、他の区有地との交換という手法を用いないこと。

2 区有地である鳥居坂グラウンドは、貴重な区民の財産であり、鳥居坂周辺の開発動向に取り込まれることなきよう十分慎重に対応すること。

平成十五年度予算特別委員長名

港区長 あて

今議会で、特に詳しく取り上げたのは「まちづくり」の問題です。
実は昨年、区立東町小学校の隣地と鳥居坂の開発計画地内にある港区の土地(グラウンド)を交換するよう動きがありました。区政の重要人物が水面

下で動く非常に不透明なものでした。
鳥居坂界隈は、港区でも有数の閑静な文教地区で、そのたたずまいを保全すべきゾーンです。港区の「街づくりマスタープラン」でも同様の方向性を謳っています。そこに浮上しているのが、超高層型の再開発計画です。
私たちは、その開発の動向に一石を投じる意味で、また、昨年の危うい動きの記憶もあり、「東町小学校隣地」と「鳥居坂グラウンド」を交換することがないか確認すべく質疑に臨みました。
しかし、役所は明言を避けてきました。つまり、交換する

鳥居坂の開発動向に一定の歯止め！

港区のまちづくりは地域の特性を活かす区民によるルールづくりが必要

とはいいませんが、交換しないとも言わないのです。開発への歩みが着々と進む中で、このような姿勢は疑念を感じざるを得ません。そこで、議会として、交換を行わないよう何らかの取りまとめをすべきと提案し、上記のような区長への要望書を全会一致で決定し区長に送付しました。議会全員の意思として区長に歯止めをかけられたことは大変よかったです。ありがとうございます。

さて、鳥居坂地域だけでなく、今港区では、大小さまざまな開発が目白押しです。ただ、現行ルールに基

づく計画を立てられてからは、ほとんど計画を変更させることはできません。これからは、地域住民が主体となり、「自らのまちのルールを自らで決めること」が求められます。現に、世田谷区や江戸川区などでは、絶対高さ制限を設ける準備を進めていますし、横浜市では、地域住民が自らルールづくりできるような支援を始めています。私は、今後、まちのルールづくりについて、区民の皆さんと一緒に考えられるよう、仕組みづくりに努めたいと思っております。

学校警備の仕事が ようやく民間委託へ

警備費用が一枚あたり

2000万円が500万円に縮減！

私たちがこの八年にわたって「学校警備の民間委託」が、ようやく本年度より実施されることになりました。本年度、三〇の中学校のうち三校で導入されます。今後は、警備の職員の退職に合わせ順次導入されていくこととなります。これにより、一枚あたり二〇〇〇万円かかっていた経費が五〇〇万円に縮減されることとなります。したがって、全校で実施されると最終的に、六億円の経費が一億五〇〇〇万円程度になり、大幅な財政支出の抑制が図れます。

しかし、問題はスピードです。提言から導入までに八年、全校実施までには少なくともあと十年はかかります。このような行政運営は、税金を払う側、すなわち区民の視点に全く立っていないと指摘せざるを得ません。もはや、役所の正規職員で対応しなくてもよい仕事だということが明らかになつたわけですから、できる限り速やかに経費のかからない方法に改革することが納税者に対する責務です。

私は、この件だけでなく、さまざまな部門で同様な事例があることをみなさんにお伝えしてきました。給食の調理や公園の清掃、ゴミの収集運搬など、公務員で対応しなくてもいい仕事は民間に任せざるべきと主張し続けています。公務員の給与制度等を考えると、正規職員対応は明らかにコストがかかりすぎます。学校警備の実例がそれを証明しています。今後とも、この姿勢を堅持し区政改革に努力を続けて参ります。

予算特別委員会【3月】で取り上げた問題（報告）

この度の審議ではまず、基本計画正式決定のないまま提案された本案が正当性を持たないことを質しました。さらに大幅な余剰を生んでいる財政状況を指摘し、減税による区民還元を提案しました。その他は、以下のような項目を取り上げました。

1. 鳥居坂周辺の開発動向に港区が利用されることなきよう、極めて慎重に対応せよ。
2. 学校給食の民間委託を推進せよ。
3. 学校用務職も民間委託すべき。
4. 運転職員の具体的削減方法を明示せよ。
5. 消防団出動手当2,500円は安すぎる。
6. 区長交際費500万円は高すぎる。
7. 環境教育の充実と学校制服の自由化。
8. エコマネー導入に向け積極的取り組みを。

予算審議における態度表明

本案は新基本計画の正式決定のないまま、それに基づき編成・提案されており、本格予算として認められません。このような悪例をつくり、区民不在の区政を続ける区長を信頼することはできません。今後、政策のチェックを強める決意を表し、一般会計予算は反対、その他三案(国民健康保険事業会計・老人保健医療会計・介護保険会計)は賛成とします。

